

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 4月 1日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775801935		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール平野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区背戸口1-12-10		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="https://hokoku.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigorep/login.do">https://hokoku.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigorep/login.do</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田三田町1797番地
訪問調査日	平成23年3月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と自由がある暮らし。  
自分らしくいつまでも。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム アムール平野」は地下鉄谷町線平野駅から、徒歩10分の所にあり、近くに小学校や市の公共施設などあって、落ち着いた環境下にある。運営推進会議を中心に地域との関わりを持ち、シルバー食事会やお祭りに参加するなど、地域と良好な関係を築いている。グループホームの建物の一階はクリニックで、ほとんどの利用者のかかりつけ医にもなっていて、医療面で連携がとれているので、利用者にとって安心できる。毎月1回は様々なイベントの特別食の日を設けたり、食事時には晩酌もできるなど、特に食を大切にしている。近辺の散歩だけでなく、天王寺へショッピングに出かけたり、寄席や地域の歴史資料館に出かけたり、利用者の思いに沿った生活が出来るように支援している。同一法人の他介護事業所との交流も、サービスの質向上に繋がっている。ターミナル・ケア、看取りの研修を重ね、スタッフ全員が不安なく、取り組めるよう努力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・愛のある我が家のような生活を目指します。 ・自由な環境を創造します。 ・信頼と安心のホームを実現します。 を理念に掲げ、スタッフ自身が愛を持って支援していけるようにしている。その人がその人らしく暮らしていける事を目指し実践している。	理念を事業所内に掲示し、月1回の全体会議等を通じ、職員一人ひとりが理念を共有し、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩している時、外の掃除をしている時などにげなく挨拶をかわして頂いている。地域の食事会やもちつき大会等に参加しビンゴゲームなどを地域の方々と一緒に楽しむ機会がある。	新平野西町内会に加入している。小学校やコミュニティセンターで開催されている祭り・食事会および餅つき大会等に利用者と職員が参加している。また、事業所内の行事にも地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民謡の会を通して地域のかたと交流し、1年に1回事業所での民謡の会が地域の方々の日頃のお稽古を発表して頂ける場となっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	火災時の連携や協力について話し合ったり、認知症についての理解を深めて頂けるような勉強会を開いたり、地域と共に前向きに考えて行く機会となっている。	運営推進会議では事業所の活動状況や行事、外部評価の報告を行っている。災害時の連携や協力のお願ひ、認知症について理解を深める勉強会の開催など、運営推進会議で出された意見・要望を活かした運営が出来ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	困ったこと、解らないことを常に相談させて頂いている。適切にサービスを提供するためにご指導頂いている。	平野区の介護保険課や、地域包括センターの担当者のところへ積極的に足を運び、情報の共有と連携の強化に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	「あなたが拘束されたらどう？」と問いかけ、一緒に考えることによって身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束をしないケアについて毎年職員に研修を実施し、実践に努めているが、1階はクリニックと薬局の他はエレベーターホールのみで防犯上、やむをえず、玄関を施錠している。利用者がエレベーターで1階へ下りていくこともあるが、さりげなく見守っている。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を開き虐待にあたる内容を一つ一つ確認しながら、その人を大切にケアを進めて行ける様に努めている。虐待防止のポスターを掲示している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>その方の声にならない声を感じ取れる力、気づける力を持てるように日々確認し合いながら支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分時間を取り、一つ一つ確認しながら進めている。それ以降の改定についても、書面や口頭で説明し、ご理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は以前より設置している。面会簿には「一言欄」を設けた。</p>	<p>面会簿に一言欄を設けているが、そこから率直な意見をくみとることは難しい。利用料の支払い時や面会時に家族からの要望や意見を聞くようにしている。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>一ヶ月に一回全体会議時には、一人一人のスタッフから必ず意見を聞いている職員の自己評価実施時にも、意見や希望を記入できるようにしている。</p>	<p>月1回職員全員が参加して全体会議を開催し、意見や情報を聴取し、話し合いながら利用者に必要な支援をしている。また、年1回は代表者と話し合う機会を設けている。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>賞与・昇給等の理由を明確に示している。個人の状況を考慮して無理なく働ける環境作りに努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフそれぞれが研修の実施担当を持って、自分たちが実施する立場になることにより、より深く理解できる様になっている。外部研修も参加をつのり参加できるようにしている。</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>スタッフは各種、研修会に参加し、意見交換できる機会となっている。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>言葉として表現できることは少ないため、しぐさや顔色等に気を配り都度声かけし、「そばに居る」ことを感じて頂けるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>『認知症』と向き合って来られたことに対する、ご家族様の御苦勞や疲勞を理解することから関係づくりが始まると考えている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人にとって今一番必要なサービスをご家族と共に考えており、アドバイスや紹介を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様のできないところはスタッフが手伝い、お料理等の不得意なスタッフの手伝いやアドバイスを利用者に頂き、お互いに助け合う関係を作っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>嬉しかったことを共に喜び、困ったことも包みかくさず伝え共に考えてる。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の話の中に出てくる人達の事を覚えておき、その人が落ち込んでいる時は元気が出る様に話題にすることもある。	馴染みの美容室に行ったり、天王寺をぶらぶらしたり、近くの会館で開かれる、寄席に出かけたりするなど、これまで馴染んできた場所や機会を大切にした支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、気の合わない方、それぞれおられるが、トラブル時ご自分たちで解決できる力を信じ、少し距離を置いて見守っている。手助けが必要な時には、お互いを支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着サービスであるためご近所からのご入所も多く、契約終了後であってもスーパーや、道で会うこともあり、その後の状況についてお伺いできている。また、必要時はフォローしている。		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしとは何かを考え、受け止める様にしている。	入居時に本人及び家族から聴き取った暮らし方の希望や意向を基に、日々の関わりの中でその人らしい暮らしの把握に努めている。気が付いたことは介護記録や毎日の連絡ノートに記載して、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	それぞれの方にそれぞれの歴史があることを忘れない様にしている。入所当初に収集できる情報には限りがあり、その後の関係から得ることができる情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力を信じ前向きに支援することを忘れない様に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>その方を取り囲むスタッフ、家族の意見を聞き、方向性を統一し、本人にとって最良の計画になるように努力している。</p>	<p>3か月に1回、介護計画を見直している。見直し時期には家族にもカンファレンスへの参加を呼びかけている。入退院時等利用者に変化があった時には家族・職員・ケアマネージャー等で、利用者本人にとって最善の計画になるよう話し合いを行い計画を見直し作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の言動、行動、食量、排泄、バイタルを記録し、本人の変化に気づける記録となり、情報共有のための大切なツールとなっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その日その日を大切に考え、日々柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方のあたたかい協力があり、地域へ参加する機会が保たれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム1階にクリニックがあり、体調不良や変化にいち早く対応している。その状態に応じて最善の医療機関を紹介して頂けている。</p>	<p>利用者の希望するかかりつけ医には家族の付き添いで受診することができる。同じ建物にクリニックがあり、殆どの利用者のかかりつけ医となっている。薬の変更の場合は[お薬変更情報書]で引継ぎ、受診の結果もミーティングで報告し情報の共有を図っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職だからの気づき、介護職だからの気づきをそれぞれ交換し、いい協力関係で支援できている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様、Dr. ホームでその時の本人にとっての最も良い治療方針を検討し、早期退院に向けての環境を整えている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の希望、家族の希望をお聞きし、ホームで出来ることご家族だから出来ることのご理解を頂いている。本人のための方向性が一致してこそできることだと考えている。	看取りの指針を文章化し、入居時、家族に夜間の連絡体制と一緒に説明している。重度化した時点で再度、家族と具体的に話し合いを行っている。また必要時には訪問看護も利用している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の変化がある時、考えられるリスクを抽出し、事前に対応策を話合っている。 研修会も開催している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて避難方法を実践すると共に、防火安全対策についてDVDを参考に話し合いをし、十分な知識の習得にも努めている	年1回消防署の立会いの基に実践的な避難訓練、消火器訓練を行っている。さらに年1度はDVDの映像や資料などを使用して災害に対する研修を行っている。運営推進会議を通して地域との協力体制も出来ている。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って接し、個人の尊厳を大切に考えられる様に勉強会等を実施し、職員は敬意を持って声かけをしている。	排泄介助時は、周囲の利用者にわからないように声かけし、さり気なくトイレ誘導することにより本人のプライドに配慮して支援している。居室には必ずノックしてから入室している。個人ファイルなどは鍵の掛かる戸棚に保管しプライバシーの保護に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと流れる時間の中、せかすことのない様に本人の言葉を待っている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>共同生活の中で生活する事の最低限の決まりの下に、個人の望む生活を営むことが出来るように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ホーム内でのおしゃれ、お出かけされる時のおしゃれ、TPOに応じた身だしなみを支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブルを拭いて下さる方、お箸を配って頂ける方、また準備段階のお手伝いをして頂ける方、出来ることをして頂き共に、“食事”をたのしんでいる。</p>	<p>父の日のビアガーデン、母の日の食事会など様々なイベントの特別食を月に1度は提供し、家族の参加も呼びかけている。食事時にはビールなどの晩酌もできる。職員は利用者と共に同じ食事を摂っている。利用者は出来る範囲で準備や後片付けに参加している。また、個別に外食の支援も行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>朝食は、パンとごはんの選択ができる。水分補給もコーヒー、紅茶、ジュースなどお好きな飲み物を提供している。嚥下の力に応じて、食事や飲み物も工夫し提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の異常がある時は、提携の歯科医院によりすぐに対応して頂けている。 毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の汚れを早期に解消できる様にしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンや尿もれ等の程度に合わせて排泄用品の検討を行っている。自尊心や羞恥心にも配慮し、声かけや誘導の方法を考えて支援している。</p>	<p>排泄記録表を基にトイレで排泄ができるよう一人ひとりに応じた方法で支援を行っている。夜間のみポータブルトイレ、オムツを使用している利用者もいるが、目覚めた時に声をかけてトイレでの排泄支援を行っている。</p>	



44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がとどこおることによる本人の不快感を理解し、食品や飲食物等の工夫をしている。Drとも相談し薬剤の調整もおこなっている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や時間の設定をせず、本人の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。	希望があれば、毎日でも入浴出来る。夜間も夜7時までなら入る事が出来る。入浴拒否の利用者に対しては入浴剤を利用して雰囲気を変えたり、時間を空けたり声掛けの工夫をしたりして自然に入ってもらえるようにしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度の管理を行い、「ちょうどいい」環境を考えて対応している。真っ暗ではないと眠れない方のためには、起きられたら点灯するように足下のセンサライトを導入している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてのベネフィットやリスクを理解している。起こりうる副作用を知っていることよって早めの対応ができています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	冬の間、編み物で作品を作って頂き、春になって出かけやすくなった時、出来た作品を身につけて出かけて頂く予定がある。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様と外食に出られたり、お墓参りや法事にも行かれています。町内のもちつきや、夏祭り、食事会にも参加し地域の方とも交流がある。	近くの公園への散歩やドラッグストアでの買い物、地域の歴史資料館などに職員と共に日常的に出かけている。自治会の行う3カ月に1度の食事会にも数人ずつ参加しており、職員、利用者全員で温泉に1泊旅行をしたこともある。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>新聞広告等で食品の価格を見て、「高いな」「安いな」と言いながら、買いに行くものを決めていることがある。出かける時は、財布をお預けし、お支払いをして頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持たれ、家族に電話をされる方もいる。年賀状やお手紙を出される時は、郵便局へ一緒に出掛けて、ご自分で投函して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お友達同士で過ごす空間、一人でゆっくり過ごす空間を用意し、無理せずに共同生活を営める様にしている。温度や湿度、照明、採光を調節し、不快な空間にならない様に努めている。</p>	<p>リビングにはダイニングテーブルの他にコーナーにテレビやゆったりとしたソファ・ベンチを置き、気分に合わせて雰囲気の違いで過ごせるように工夫している。大きな窓やテラスが設けられているため、外部への広がりを感じられ開放感があり居心地の良い空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>音楽やTV等、お好きなものに親しみながら一人であったり、みんなと一緒にであったり、それぞれの時間を過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使って暮らして来られた家具はもちろん、入居後もご家族と共にご本人らしい部屋を作っておられる。</p>	<p>居室の造りは洋室となっているが置き畳みを敷くことにより、和室としての使い方も出来る。ベッド、カーテンは事業所が設置している。利用者はラジカセ、仏壇、写真など、使い慣れた好みの身の廻り品を持ち込み、その人らしい居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ヒヤリハット事例等の発生時、その場所その状況にスタッフが立ち戻り、問題点を抽出し、『安全な環境とは』を皆で考えている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない